

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称) 柏の葉キャンパス新技術センター計画 B 棟 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								4.0	
Q1 室内環境					0.40		-	4.1	
1 音環境				4.4	0.15		-	4.4	
1.1 室内騒音レベル		NC-40		4.0	0.40		-		
1.2 遮音				5.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		5.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能		Dr=50		5.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:ロックウール化粧吸音板		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				3.6	0.35		-	3.6	
2.1 室温制御				4.2	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能		[窓]SC=0.46、U=1.95W/m ² K、[外壁]U=0.97W/m ² K		5.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		細かなゾーニングがなされており、空調はゾーンごとに冷暖選択可		5.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				4.7	0.25		-	4.7	
3.1 昼光利用				4.6	0.30		-		
1 昼光率		昼光率:U=2.7%		5.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備		ハイサイドライトの採用		4.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				5.0	0.30		-		
1 昼光制御		電動ブラインドによりグレアを制御している		5.0	1.00		-		
3.3 照度		照度:500lx		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御		1作業単位で照度センサによる自動照明制御が可能		5.0	0.25		-		
4 空気環境				4.1	0.25		-	4.1	
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用している		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.6	0.30		-		
1 換気量		中央管理方式の空調設備が設置されている。換気量:30m ³ /h人		4.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		給気は排気と同じ方位で6m以上の位置にある。		4.0	0.33		-		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 監視が中央で常時行われており、管理マニュアルも整備されている。		5.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-	4.2	
1 機能性				4.3	0.40		-	4.3	
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40		-		
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペース:9m ² 以上		4.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応		将来的に複数キャリアを引き込める空配管を設置している		4.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高:3.0m		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上、かつ自販機の設置		5.0	0.33		-		
3 内装計画		パースによる内装の事前検証を実施している		5.0	0.33		-		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		トイレの壁・床には防汚性の高い材料を使用している		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用具庫に洗い場を設置し、排水設備への経路を確保している		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				4.5	0.30		-	4.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%増の耐震性		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置を採用し建物全体で内部設備保護が図られている		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット(20年)		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気にSUSやガルバリウム鋼板を採用		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		空調配管:配管用炭素鋼鋼管(白)・・・D		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.8	0.20		-		
1 空調・換気設備		重要度に応じた系統区分、災害時の優先運転・電源供給		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		過半以上にグリーン購入法適合品と同等の節水器具を採用		4.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電機の設置		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:S以上		5.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		ネットワーク機器用の無停電装置の設置		5.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高:4.5m	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.22	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
		事務室:4900N/㎡					
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	室外機はGL+10m以上の位置に設置している	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			3.5	0.50	-	-	3.5
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
	集合住宅以外の評価		4.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	主要な設備システムに関して4種類以上のシステム効率の評価が可能	5.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	運用管理体制を組織化し、エネルギー消費量の目標値を設定している	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水コマ、自動水栓に加えて省水型機器を過半以上に採用している	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
	2.1 材料使用量の削減	合成スラブデッキ、キャブリングパイル工法の採用	5.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼(柱、大梁、小梁等)	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル系床材(倉庫等)、ボード類(外部軒天)、スラッジを用いた路盤材(路材)	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム(ODP=0、DWP=3)	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
	2.1 大気汚染防止		1.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	指導された規模以上の雨水流出抑制対策を実施している	4.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な量の駐輪場や駐車場を確保している	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.50	-	-	
	2 振動		3.0	0.50	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満足している	5.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	